

書名	宗教の日本史			著者名	本郷 和人／著		
出版社	扶桑社	ISBN	978-4-594-09770-7	本体価格	¥900	発売	2024/11/1
内容	歴史を振り返ると“宗教的グレー”な感性が随所に垣間見られます。その一例が、奈良の東大寺にある「手向山八幡宮」と呼ばれる神社の存在です。なぜ仏教寺院に八幡様を祀る神社があるのか。それは、聖武天皇が東大寺の大仏造立のために全国に協力を募った際、大分県の神社・宇佐八幡宮が積極的に協力したという背景があるからです。これほど神仏が混在する宗教観を受け入れる国は、世界広しといえどそう多くはないはず。本書では、そんな日本独自の“グレー”な宗教観についてご紹介していきます。						

書名	奈良時代の日本語			著者名	沖森 卓也／著		
出版社	朝倉書店	ISBN	978-4-254-51692-0	本体価格	¥2,900	発売	2024/11/6
内容	現代日本語がどのような体系や構造を有しているのかをより深く知るために、その変遷の過程を時代別に詳しく見つめるとともに、それをわかりやすく歴史的に位置づける。この巻では、日本語の成立から奈良時代までの「上代」までを見ていく。						

書名	あなたは今、輝いていますか。			著者名	村上良雄／著		
出版社	風詠社	ISBN	978-4-434-34427-5	本体価格	¥2,800	発売	2024/11/11
内容	奈良の地で芽吹いた「誰もが自分らしく生きられる家」づくりをめざす運動は、関わる人たちそれぞれが思い描く夢を重ね合わせて次々に実現してきた。その「わたぼうし」スピリットはアートと音楽の風に乗れ、奈良から全国へ、そして今や日本から世界へと広がっている。 絆を結び続けてきた「たんぽぽの家」、その50年の軌跡を綴る一冊。						

書名	近代天皇制と古都 オンデマンド版			著者名	高木 博志／著		
出版社	岩波書店	ISBN	978-4-00-731503-9	本体価格	¥4,900	発売	2024/11/11
内容	共通の記憶をもった国民の創造こそ、近代国家形成の鍵である。本書は、近代天皇制が奈良と京都を自らの原郷・聖所(古都)として国民の記憶に刻みつける過程を克明に実証する。「古都」の空間表象をめぐる斬新な政治学。						

書名	はたらく図書館			著者名	矢萩 多聞／著		
出版社	創元社	ISBN	978-4-422-70194-3	本体価格	¥2,200	発売	2024/11/12
内容	奈良の図書館「奈良県立図書情報館」。 図書館の仕事ってのんびりしてそう、と思ったらおおまちがい。書庫から本を取り出して、返ってこない本をさいそくして、こわれた本を直すこともある。司書は毎日大忙し、いきつくひまありません。図書館の知られざる裏側を覗きます。						

書名	強い会社を作る「足元経営」			著者名	里井 謙一／著		
出版社	アルソス	ISBN	978-4-910512-17-4	本体価格	¥1,500	発売	2024/11/19
内容	奈良県にある80年以上続く老舗の靴下製造会社 日本ニット株式会社の3代目社長が描く、強い中小企業を生み出す経営と地域経済活性化方法。						

書名	古代の酒に酔う			著者名	庄田 慎矢／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08467-3	本体価格	¥2,500	発売	2024/11/22
内容	古代の人々はいかに酒を造り、それはどんな香りや味がしたのか。平城京長屋王邸宅跡から出土した木簡には、酒米や麴、仕込み水の比率などが記される。酒を仕込むための容器である須恵器甕を復元し、いざ古代の酒造りに挑戦。考古学や文献史学、微生物学など多分野の研究者や酒造家が結集し、世界各地の土器醸造にも目を向け、甕酒造りを再現する。						

書名	感じる万葉集 雨はシクシクと降っていた			著者名	上野 誠／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-703729-8	本体価格	¥1,450	発売	2024/11/27
内容	鼻水を「ビシビシ」と啜る。馬の足音は「トド」と鳴る。酔っぱらいたちは「アラアラ」と騒ぐ。日本最古の歌集である『万葉集』には、様子や音、心情を言葉で表すオノマトペ(擬態語・擬声語)が詠まれた歌がたくさん収録されている。万葉の人びとは、目の前のものをどのように感じ、どう表現していたのか——。定番の歌からあまり知られていない歌まで、万葉学者が楽しく紹介。言葉の響きから心の世界を読み解く、新しい入門書。						